

特別展 *入館料のみでご覧いただけます

特別展

フォルテピアノの芸術

音楽の都ウィーンの19世紀

7.13(土)～12.10(火)

「音楽の都」として現代も知られるウィーンの歴史を19世紀までさかのぼります。現代とは異なるピアノの機構やデザインに光をあて、当時の楽器が映し出す製作家の創造性と、高度で繊細な技術をご紹介します。音楽家との深い関係や、音楽や楽器製作を取り巻く当時の社会などについてもとりあげ、今日も親しまる古典派やロマン派の音楽が育まれた背景にせまります。

企画展 *入館料のみでご覧いただけます

企画展

海をわたった楽器たち

多彩な文化の地 ラテンアメリカの旅

2025. 1/11(土) ▶ 5/13(火)

他地域から海をわたってきた楽器の変遷を「旅」をキーワードにたどり、ラテンアメリカで多彩な音楽が生まれた背景を探ります。旅の終着地は日本とし、身近に存在するラテンアメリカ発祥の音楽と文化のありかたにも目を向けます。

レクチャーコンサート

フォルテピアノでたどるウィーンの音色

9/21(土) 開演14:00

【会場】音楽工房ホール **チケット発売**
【出演】小倉貴久子 **7/7(日)より**
【料金】【全席自由】一般 2,500円 学生 1,000円(24歳以下)

日本にわたったアンデスのうた

ペルー南部アヤクーチョ地方の暮らしの記憶

2025. 2/22(土) 開演18:30 **チケット発売**
【会場】館内 天空ホール **12/1(日)より**
【出演】イルマ・オスノ(歌、チンリリ)
【料金】【全席自由】一般 2,500円 学生 1,000円(24歳以下)

ミュージアムサロンコンサート *入館料のみでご覧いただけます

リードオルガン

～風をうたう楽器の魅力を味わおう～

6/2(日) 11:00～/14:00～(各回30分)

【会場】館内 天空ホール 【出演】中村証二



カラフルサウンド！ラテン音楽ツアー

2025. 3/23(日) 11:00～/14:00～(各回30分)

【会場】館内 天空ホール
【出演】Quenarpan(ケナルパン)



イブニングサロンコンサート

西アフリカ伝統弦楽器 コラ

～グリオ(伝承音楽家)が語り奏でる悠久の響き～

6/22(土) 開演18:15

【会場】館内 天空ホール **チケット発売中**
【出演】ヤクバ・ジャバテ、カラモ・シソコ **9/1(日)より**
【料金】【全席自由】一般 2,000円 学生 500円(24歳以下)

～南シベリア遊牧民の伝統音楽～

イギル、ドシブルール、喉歌

11/1(金) 開演18:30

【会場】館内 天空ホール **チケット発売**
【出演】寺田亮平 **9/1(日)より**
【料金】【全席自由】一般 2,000円 学生 500円(24歳以下)



ワークショップ

いまのピアノとどう違う？19世紀ウィーンのピアノ演奏はどう違う？

ウィーンのピアノ(複製)を弾いてみよう！

9/22(日) 11:30～/ 15:00～(ひとり10分間)

【会場】館内 天空ホール (参加費) 2,000円 参加者申込6/17(月)～7月末日
【講師】小倉貴久子 (料金) 小学4年生から高校生(事前審査あり)

講座

嶋崎赤太郎生誕150年記念

音楽講座「明治期唱歌とオルガン」

6/1(土) 14:00～

【会場】研修交流センター 62研修交流室
【講師】赤井 勘
【料金】【全席自由】一般 2,000円 学生 500円(24歳以下) **チケット発売中**

いまのピアノとどう違う？19世紀ウィーンのピアノ「中身はどう違う？ウィーンのピアノ大解剖！」

9/22(日) 10:30～/14:00～(各回45分 ※演奏あり)

【会場】館内 天空ホール
【講師】太田垣至(フォルテピアノ製作家)、小倉貴久子(演奏)
【料金】入館料でご覧いただけます



19世紀ウィーンの音楽文化とピアノづくり

11/22(金) 18:30～

【会場】館内 天空ホール
【講師】筒井はる香、太田垣至、平井千絵(演奏)
【料金】【全席自由】一般 2,000円 学生 500円(24歳以下)
チケット発売 9/1(日)より 筒井はる香



※スケジュールは中止、変更、追加になる場合がありますので、必ず事前に博物館ホームページ等でご確認ください ※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です

利用案内

- 開館時間 / 9:30～17:00
- 入館料 / 大人800円、高校生400円、中学生以下・70歳以上・障がい者 無料
- 休館日 / 毎月第2・4水曜日(祝日の場合は翌日、8月は無休)、年末年始、施設点検日、館内整理日
- アクセス / 徒歩 : JR浜松駅北口より東へ徒歩10分
車 : 東名浜松I.C.・浜松西I.C.より車で30分、新東名浜松浜北I.C.より車で50分、浜名湖・館山寺より車で40分

- カフェレストラン LOLO 3RD CAFE TEL.053-451-3222 <https://www.actcity.jp/restaurant/>
- ミュージアムショップ アンダンテ TEL.053-451-0300 <http://andante-museum.jp/>

専用駐車場はありません。アクトシティ地下駐車場、市営駅北駐車場、コインパーキング等、周辺の駐車場(すべて有料)をご利用ください。



浜松市楽器博物館

<https://www.gakkihaku.jp>

〒430-7790 静岡県浜松市中央区中央3-9-1 TEL.053-451-1128 FAX.053-451-1129

指定管理



浜松市文化振興財団
Hamamatsu Cultural Foundation



浜松市楽器博物館だより

世界がきこえる 世界がみえる

楽器の博物館

No.142
2024.5.1発行



特別企画

「西アフリカの伝統弦楽器 コラ
～グリオ(伝承音楽家)が語り
奏でる悠久の響き～」

■ Museum Voice

〈学芸員の談話室〉
私のイチオシ楽器【スティールパン】
〈楽器博物館お仕事図鑑〉
学芸員実習(博物館実習)



Interview

太田垣 至
(ピアノ製作・修復家)



特別展

フォルテピアノの芸術

音楽の都ウィーンの19世紀

7.13(土) - 12.10(火)

Interview

太田垣 至 さん

(フォルテピアノの製作・修復家)

当館の鍵盤楽器の管理をしてくださっている太田垣至(おおたがきいたる)さん。製作者の視点から、ウィーンで作られたピアノの魅力についてお話していただきました。

Q 当館ではどんなお仕事をされていますか？

A こちらのギャラリートークで何台かの楽器をほぼ毎日使用しているので、いつもいい音で聴いてもらえるようにメンテナンスをしています。年に何回かコンサートが行われますが、それに向けて調整をしていくこともあります。また、いろいろな研究・出版物のための調査もしています。

Q この道を選んだきっかけは？

A ピアノの裏方というか、技術者の仕事との最初の出会いは、家に来るピアノの調律師さんでした。そういう仕事って面白いなと思っている中、博物館のようなところに行って、古い時代は工場ではなくて工房で作っていたということを知りました。それまでは個人で仕事をするなら修理や修復をできるようになればいいなと思っていましたが、作ることでいい!というのは自分にとってすごく、ビビッとくる出会いでした。それ以降は当時の楽器を知るとともに、それをどうやって作るのかということを学ぼうと思いました。そしてそれがいつか仕事になるといいなと思って今に至っています。

Q ウィーンで作られたピアノの魅力は？

A 一番のすごさは、音に対するプライドですね。「ウィナー・トーン」という言葉がありますが、ピアノがどんどん移り変わっていく中で、ウィーンの人たちはそういう流れに甘んじずに、自分たちの音楽を守ろうとした部分があります。どんどん新しくなる世の中だけれど、自分たちはこの音楽を大切に、この音を大切に、つまりそれは自分たちのピアノづくりを大事にする、という昔の職人の想いを引き継いでいたのだと思います。「工場」というよりも「工房」の精神をずっと残していた、というのがウィーンのピアノづくりの素晴らしいところで、僕は一番そこが好きです。

19世紀初頭からの「古典派」の時代は、大作曲家がウィーンにいました。ピアノがどんどん変化したのは、その人たちの要望があつてこそでした。皆さんが弾くような大作曲家を知るためには、当時のウィーンについてもぜひ知ったほうが良いと思います。

Q 当館に展示されている鍵盤楽器の魅力について教えてください。

A 「フォルテピアノ」はおおよそロマン派の時代くらいまでにつくられたピアノを指し、この博物館に多く展示されています。200年ほど前の楽器ですから、当時の姿が全くそのまま残っているということはほぼありません。長い年月の間にたくさん弾かれて、色々なところがすり減ったり、交換が必要になっている状況だったり、あるいは以前にだれか技術者が修理してしまい、それも色々なことが行われて昔の姿がどうだったかわからなくなっていたり、本当に様々な楽器があります。それぞれの楽器を博物館としてどう残していくか、あるいは保存していくかということを、スタッフのみなさんと相談しながら維持管理することがとても大事なことだと思います。

フォルテピアノの時代というのは、ピアノにどんどん新しく、色々なことが取り入れられて様変わりしていく過程を一番見て取れる時代ですが、そういう楽器がこれだけたくさん集められている場所というのはあまり他にありません。この博物館に来るとピアノ300年の歴史を俯瞰できるので、そこが大きな魅力だと思います。

Q 今回の特別展で、特にお客様に注目してもらいたいポイントは？

A 音だけではなく「楽器」という文字どおり「器(うつわ)」そのものも見たいと思います。パッと見てすごく美しいと思われるでしょうし、今ではとても手に入らないような材種が使われていたり、木目が使われていたりします。そういうものを見ていただいて、何か自分の中で、ピアノは「ただ音がいい楽器だ」というのではなくて、「美しくて愛おしいものだ」みたいな、工芸品的な感覚でも楽しんでいただければと思います。

太田垣 至(おおたがき いたる)

フォルテピアノヤマモトコレクション、久保田チェンバロ工房、C. クラーク(仏)、A. ツェルニオン(奥)、フィンチコックス博物館(英)、E. プンク(蘭)にてフォルテピアノ製作、修復技術を研鑽。
浜松市楽器博物館、国立音楽大学楽器学資料館、河合楽器歴史資料室の鍵盤楽器の管理を任されている。国立音楽大学講師。



関連イベント

第216回 レクチャーコンサート

「フォルテピアノでたどる ウィーンの音色」

9月21日(土) 開演14:00 研修交流センター 音楽工房ホール
出演/小倉 貴久子

料金/一般2,500円 学生1,000円(24歳以下)

A. ワルター製作(複製)と伝C. グラフ製作(当館所蔵)のピアノを演奏し、18世紀末期から19世紀前半にかけて変化したピアノの音色と、そこに映し出される音楽家と製作家の想いをたどります。

チケット発売 7/7(日)

▶伝C. グラフ(ウィーン) 1830年代
全長 242.0 80 鍵 C1~g4



特別企画

西アフリカの伝統弦楽器 コラ

～グリオ(伝承音楽家)が語り奏でる悠久の響き～

西アフリカでは伝統的に、楽器のほとんどを「グリオ」と呼ばれる世襲制の音楽家が担ってきました。「コラ」という弦楽器もそのひとつで、グリオの語る歴史や教訓とともにその演奏が受け継がれてきました。

コラとは？

紙の模様にも注目!

西アフリカのハーブの一種で、胴から突き出た棒を両手で握みながら、親指と人差し指を使って弦をかき鳴らして演奏します。楽器は、一般的に昔からの習わしで奏者自身が作っています。半分に切った大型のひょうたん(ウシ科やシカ科などの革がはってあり、紙でとまっています。この紙は、持ち主が胴体の背面に好きな模様を描くときにも使われます。21本の弦は、さおに巻かれた紐にくくりつけます。この紐を使って張力を変え、自身または歌い手となる人物の声域や合奏する楽器に合わせて調弦します。それぞれのグリオがメロディーを変奏するため、全く同じ音楽は存在しません。

グリオとは？

楽器の演奏が許された特別な人々です

マリ、セネガル、ギニア、ガンビアといった西アフリカの音楽文化に見られる、世襲制の職業音楽家・口承伝承者・吟遊詩人。元々は主に王家に仕え、王や民族の歴史、教訓を歌い語り継いできました。パトロンをほめたたえる歌や、時には自分自身をほめたたえる歌も演奏します。沢山の知識を蓄えていることから、「グリオが亡くなると本屋さんが無くなるようなものだ」と言われるほど、現地では尊敬される存在です。



イヴニングサロンコンサート

「西アフリカの伝統弦楽器 コラ」 ～グリオ(伝承音楽家)が語り奏でる悠久の響き～

場 所/館内 天空ホール

出 演/ヤクバ・ジャバテ、カラモ・シソコ

全席自由/一般2,000円(未就学児不可)・学生500円(24歳以下の学生)

6月22日(土)

開場 18:00
開演 18:15

チケット発売中!

グリオの一族の演奏...これは聴くしかない!



ヤクバ・ジャバテ



カラモ・シソコ

特別企画関連イベント

当館の1階で、ミニ展示を開催中!

ミニ展示
「弦楽器コラと吟遊詩人グリオ」

演奏動画も放映中!

学芸員の談話室

私のイデオシ楽器

【スティールパン】

ドラム缶を使った楽器で、カリブ海に位置するトリニダード・トバゴ(以下TTと記す)で生まれました。TTのカーニヴァルで演奏されるほか、『リトル・マーメイド』の《アンダー・ザ・シー》でも使われています。

15世紀末、カリブ海の島々がコロンブスに発見されると、TTもヨーロッパ列強による植民地争奪の場となりました。植民地となったTTには、アフリカやインドから労働のために連れてこられた人々がいました。彼らはカーニヴァルで太鼓や竹の楽器を使っていたのですが、様々な理由で使用禁止になります。スティールパン誕生史は、楽器を禁止されてしまった人々の「苦肉の策」からはじまります。

初めはビスケットの缶などを叩き、楽器として使用しました。その後、もっと色々な高さの音を出したい!という考えから、大きなドラム缶に複数の凹凸をつけます。丸い凹凸が写真で確認できますが、これにより様々な高さの音を出すことができるのです。TTは産油国のため、ドラム缶を入手しやすかったことも楽器誕生の一因と考えられます。

私たちも、何気なく使っている道具を見直して、楽器にできるかもしれない!と試してみると面白いかもしれません。



・演奏の様子はこちら! 楽器の音を聞いてみよう!

楽器博物館お仕事図鑑

学芸員実習(博物館実習)

毎年夏ごろ、学芸員資格の取得を目指す学生を対象に実習を行っています。学芸員とは、博物館で働く専門職員のこと。大学の学芸員課程では、博物館での実習が資格取得の要件になっています。

幅広〜い楽器博物館での学芸業務。それを少しずつでも体験できるようなプログラムを用意しています。実習生たちは6日間かけて、楽器の梱包から、展示やワークシートの制作、ギャラリートークの実施、写真撮影、照明の取り付けまで、さまざまな作業に取り組みます。休館日には、職員と一緒に楽器や展示室も清掃します!講義では「博物館資料としての楽器」や「現代社会における博物館の役割」などのテーマと向き合い、博物館で楽器を扱う学芸員の視点や思考を身につけていきます。

実習生のひたむきな姿勢や互いに学び合う様子には、職員も刺激を受けています。今年は8月5日(月)〜10日(土)に実施予定。最終日の午前中には、実習生によるギャラリートークを公開で行います。よろしければぜひ応援しに来てください!



▲制作した展示についてプレゼン



▲楽器の梱包にチャレンジ!



▲最終日のギャラリートークは一般のお客様も鑑賞